



大学と地域や地元企業との連携

大学

地域

地方
創生

持続可能な地域と 産業を創出するために

Member

岐阜大学 地域協学センター
センター長・教授

益川浩一 氏

㈱十六銀行 法人営業部
地域開発〇課長

國島正人 氏

岐阜大学 地域協学センター
特任准教授

大宮康一 氏

㈱オゼキ
常務取締役

尾関年彦 氏

岐阜大学 地域協学センター
地域コーディネーター

野村典博 氏

岐阜商工会議所事務局長

河尻 満

今、日本各地の地方都市では、地域経済活性化、環境問題、少子高齢化、中山間地問題といったさまざまな課題・問題を抱えています。私たちが暮らす岐阜においても他の地方都市と同じく喫緊の課題となっています。

そのなかで、当所では去る4月15日に岐阜大学で取り組まれている「地(知)の拠点整備事業」をもとに、座談会「地方創生・持続可能な地域と産業を創出するために」を開催しました。

今月号では、この座談会を通して、新たな大学と地域の関係やこれらの課題などについて考えていきたいと思います。

はじめに、岐阜大学の「地域協学センター」について、益川教授にご紹介いただきます。

益川 岐阜大学では、『学び、極め、貢献する』地域に根ざした国立大学を理念として掲げ、より広く地域の皆さんの要請と期待に応えられるよう努めています。

そのなかで地域に根ざした大学を目指し、地(知)の拠点として全学体制で地域の課題を解決すべく、平成25年12月に「地域協学センター」を設置しました。

これは文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)において、「ぎふ清流の国 地×知の拠点創成」地域にとけこむ大学」が採

択され、COC事業の実施支援機関として、運営しているものです。

現在、センターには専任の教員の他、連携自治体である岐阜市・高山市・郡上市・岐阜県から派遣された自治体職員の皆さん、またNPO活動等で活躍している方を地域コーディネーターとして配置し、全学をあげて各学部・部局等が連携して、岐阜大学が地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての地(知)の拠点となることを目指しています。

—どんな取り組みをされているのでしょうか。大宮准教授にお伺いします。

大宮 地域協学センターでは、県内の他大学・自治体・地元企業と連携して岐阜の雇用創出・地元就職・若者の地元とどまりを目指した取り組みを推進していきたいとの考えのもと、次世代地域リーダーの育成、多様な人びとが集い対話する『場』の設置及び地域志向学プロジェクトの推進を3つの柱として、様々な取り組みを進めています。

まず、次世代地域リーダーの育成では、学生教育の中で、岐阜を知り、

岐阜の課題をみつけ、岐阜の課題解決に向けて行動する能力を備え、グローバル化する現代社会の中で活躍できるグローバルな人材の育成を目指します。

平成27年度から「次世代地域リーダー育成プログラム」を本格実施し、岐阜を知ることと目的とした地域志向科目の講義を2単位修得すること必修としています。

本プログラムでは、さらに、地域の企業・団体などにおけるインターンシップ活動の実践の中で、地域の課題を見つけ、その解決に向けて学生自身がプロジェクトとして取り組み、より実践的な能力を習得できる機会も用意しています。地域での活動や実践を通して学んだ学生には「学生コーディネーター」や「ぎふ次世代地域リーダー」などの称号を授与します。

次に、「多様な人々が集い対話する『場』の設置」では、地域の人びと・自治体の職員の皆さん・大学の教職員、そして学生等が世代や立場を超えて多様な人が対話・交流できる空間を構築・運営し、学内外から広く持ち込まれた課題に対し、解決に向けた対話を通じて地域社会に貢献する「フューチャーセンター」を開催し

ています。

例えば、平成26年度は、連携自治体と共催で、「若者が魅力を感じるまちづくりと課題」、「移住する人を増やすためには」、「地域産業が活気付くにはー雇用の場の創出ー」等をテーマとしたフューチャーセンターを14回開催し、地域の課題発見と課題解決に向けた検討がそこでなされました。また、「地域の高齢者を支えるために大学や学生ができること」をテーマとしたフューチャーセンターで出された意見が「第6期岐阜県高齢者安心計画」に反映されました。

3つ目の「地域志向プロジェクトの推進」では、研究の側面から地域が直面する複雑・広範化してきた地域の課題に対し、学際的に複数の学問の「協働」による解決を図る研究の支援を行っています。

—では、地域企業では若い方を雇用するにあたり、「どのような人材」を求めているのでしょうか。また、「大学」については何を求めていますか。國島さん、尾関さんいかがでしょう。

國島 求める人材としては、主体性があり、何事にも前向きでパワーあ





岐阜大学 地域協学センター
センター長・教授

益川浩一 氏

ふれる人、自己研鑽を怠らず、金融のプロフェッショナルを目指す志のある人、コミュニケーション能力が高く、明るく元気な人です。

大学は、第一に学業の場ですが、人間形成においても重要な時期であり、社会に出てからも活躍できる人材を育成していただきたいと思っています。そういう意味でも、地域協学センターの取り組みはとても意義深く共感できるものです。

尾関 私も、コミュニケーション能力を兼ね備えた人、与えられた職務を全うする責任感をもった人を求めます。また、当社は明治時代から続く岐阜提灯の製造業者ですので、職人においては、辛抱強くひとつひとつの技を習得して行く姿勢も必要です。

―― お二人のお話からも、この取り組みが企業の求める人材を育成していく大きな力になることがわかります。

昨今、地域や地元企業と大学との

一方で、企業側にそれを活かしているノウハウが不足していることや保守的な考えがあることも現実としてあります。今後、大学と一緒に学んでもらえるプログラムを考えながら良い関係、連携を築いていく必要があると思います。

大宮 フューチャーセンターはそういった機会になればと思います。学生や自治体、企業、大学の教員などで様々な課題を話し合うことは、課題解決への糸口になるだけでなく、コミュニケーションを通して、連携のあり方やマッチングにも通じます。企業からの提案の「フューチャーセンター」も企画しますので、活用いただければと思います。

―― 岐阜大学では、愛知県からの学生も多く、また就職先を県外に希望する学生も多々あると伺っています。企業では、人材として、愛知・名古屋をどのように意識しておられますか？



岐阜大学 地域協学センター
特任准教授

大宮康一 氏



(株)十六銀行 法人営業部
地域開発G課長

國島正人 氏

連携がさまざまなに行われる機会が増えてまいりましたが、課題もあることと思います。

益川 企業からどのような人材が求められているか、どの人材をどのように育成して、就業という機会でのようにお役に立てるかを考えると、現実問題として、学内の座学だけでは育成していくことやその教育の場を提供していくことは難しいことかもしれません。地域や企業との連携や、実社会で学ばせていただくことが重要だと考えています。

國島 銀行として、大学との連携は、産学連携の中での共同での技術開発や商品開発の支援などで経験してきました。しかし、学生との繋がりは実際にはあまりありません。銀行としても地方創生の中で地域の活性化などに取り組んでいるので、学生を含めた大学との新たな連携を考える必要があると思います。

そういった中で、課題は2つある

國島 弊行は、愛知県に50店舗を構え、地元化戦略を進めており、隣県という意識は持っていません。最近の採用も、岐阜県出身者と愛知県出身者の比率は半々となっています。また、岐阜県の進学者の約半数が愛知県に進学する一方、県内大学生の6割は、県外出身者とも聞いています。こうした学生がそのまま県内に留まってもらえるような魅力あるまちづくりも重要なことと考えています。

尾関 当社は、岐阜市及びその近郊出身者が多いものの、愛知県内出身者も採用しています。提灯をはじめとする工芸品に関心のある人、芸術分野の学校に在学していた人などを採用する上で、特に岐阜・名古屋に境を設けている訳ではありません。

―― 地域コーディネーターとして地域協学センターで活動していらっしゃる野村さんにお伺いします。学生はもとより今の若い人たちに岐阜県



(株)オセキ 常務取締役

尾関年彦 氏



岐阜大学 地域協学センター
地域コーディネーター

野村典博 氏

と思います。一つ目は、企業と大学の時間軸が違うことです。企業は短期で研究成果を求めますが、大学では、成果が出るには数年かかるケースが多く、時間軸のギャップがあります。二つ目は、大学のシーズが細分化かつ専門的過ぎてわかりづらいのと、企業が技術的な課題を明確にしていないため、企業と大学とマッチングがスムーズに進まないことだと思います。

尾関 私自身、学生時代に企業でのインターンシップに参加し、大学での学びと実社会での体験を通じた学びとの違いを経験しました。ですから、学生が大学内にとどまるだけでなく、地域や企業との関係の中で学ぶ意義や大切さはよくわかります。岐阜大学がこうした取り組みを積極的にやっていただけることは意義深いことですし、実務を通じて地域の伝統産業や企業での体験を積み、関心を持つてもらえることはありがたいです。

普段交流のない年代や職種の人と出える**地域活動は、進路や将来に悩む学生にとって貴重な学びの機会です**

岐阜大学大学院 工学研究科
社会基盤工学専攻
川口直秀さん

私は大学に入学する以前から、地域活性化に興味がありました。大学1年生のときに受けた教養科目の授業で、インターンシップやボランティアを通じて地域で活躍する学生が大勢いることを知りました。自分にも何かできることは無いかと考えていたところ、岐阜大学内にボランティア相談窓口が新設されるという話を耳にしました。「地域で何かしたい学生と、困りごとや悩みごとを抱えた「地域」をつなぐことで、住みやすいまちづくりに間接的に貢献できると考え、ボランティア相談窓口の手伝いをする学生スタッフになりました。



ボランティアに参加した学生の話を聞くうちに、普段交流のない年代や職種の人と出える地域活動が、進路や将来に悩む学生にとって貴重な学びの機会になっていることに気づきました。その様子を見ていて、私自身も教育の分野に関心をもつようになりました。

岐阜という地域に、若者の「何かしたい」という思いに応えられる環境があつてほしいと思いますし、自分もその環境づくりに関わっていきたいと思っています。

◀ 次頁へつづく

事例3

【テーマ】

「地域の高齢者を支えるために大学や学生ができること」

岐阜大学と岐阜県の共同開催で、学生、地域住民、県職員など24名の皆さんが「地域における暮らしの問題点」「高齢者やその家族が安心して暮らすためには」「地域の高齢者を支えるために大学や学生ができること」について話し合いました。



(岐阜市 三田潤団地内集会場にて：平成26年11月)

事例2

【テーマ】

「災害から身を守るためには」

岐阜大学と郡上市の共同開催で、学生、大学教職員、郡上市職員、地域の皆さんの46名が災害に対する備えを振り返り、今後の取り組みを探りました。



(郡上市総合文化センターにて：平成27年2月)

事例1

【テーマ】

「岐阜らしさ」と暮らす～文化的景観とは～

岐阜大学と岐阜市の共同開催で、岐阜大学生、大学教職員、岐阜市職員及び岐阜市民の皆さん44名が、「『岐阜らしさ』に何が必要か？」について話し合いました。



(岐阜大学サテライトキャンパスにて：平成27年1月)

大学と地域や地元企業との連携

大学 + 地域

自由な意見を話せる「場」をみんなで作る

フューチャーセンターの
取り組み



外での経験は、何がどのように活かされていくのでしょうか。

野村 実感として、企業や地域で活躍している若い方や都市部であっても出身地を意識して活躍されている方が増えていると思います。その活躍の土台になっているのは人脈というか、ネットワークでしょうね。

岐阜県外や都市部での就職や活躍の場であっても、岐阜や自身の出身地、学んだ場所を意識したり、その地の仲間とのつながりを活かしていけば、地域の課題に則した企業活動

の中で地域への還元がなされると思います。

中山間の過疎化や人口減少など、地域が存続できるかどうかという大きな課題がある中で、他方ではグローバル化により進展しています。若い皆さんに国際的な経験や素養はどのくらい必要なのでしょう。

野村 これだけ世界が狭くなっている中、地域の産業や企業であっても、世界を相手にする商売となつていきます。コミュニケーションという視点だけでなく、留学や交流の経験からうまれたネットワークは、自身だけでなく、岐阜の企業にとっても強みになるでしょうね。しかし、岐阜大学が取り組んでいる地域志向の教育や地域との連携が前提にないと、それ



を活かす機会を逸するとおもいます。

尾関 当社はイサム・ノグチの「AKARIシリーズ」を以前より欧米へ輸出しており、ビジネス上の交流・ネットワークがあります。

今後、和紙を透したあかりの良さを一層海外へ広めていきたいと考えており、その方向性に見合った若い人材が地元で確保できれば素晴らしいことだと思います。

國島 岐阜県・愛知県の企業は、自動車関連を中心として多くの製造業が海外へ進出しています。日本食ブームもあり、サービス業の進出も増加しています。また、実際に海外に子会社が無くて、海外から輸入を行ったり、海外に輸出している企業も多くあり、そういった意味ではこの地域と海外の結びつきは非常に強いといえます。

こうした取引先の海外での事業展開をサポートするため、弊社でも海外に駐在事務所を開設しています。

海外に派遣された行員が感じる共通事項としては、「それぞれの国において独自の歴史・宗教・価値観を背景として、様々な考え方があり日本とは異なること」「日本は海外との協力関係が無ければ成り立たないこと」等が挙げられると思います。

若い皆さんにおかれましては、英語はもちろん出来た方が良いでしょうが、実際に行って海外を体感すること、同世代の友人を海外にも作り、色々と話をしてみることから始めることが重要なのではないのでしょうか。

ありがとうございます。

今後、持続可能な地域産業を創出していくためには、次世代を担う若い人材の確保は不可欠です。

このような連携が進捗していくことを、地域全体で願っています。

● **座談会を終えて**
地域や企業、大学、学生の連携・新たな関係をつくっていくという岐阜大学地域協学センターの取り組みにより、学生は地域や職場産業や企業を知り、そこから学ぶ意義や感性を培います。また、それらを土台に専門性を身につけることもできます。

これは、地域や企業にとって有益であり、まさに「地方創生」の鍵となり、大きな力になっていくことを、今回の座談会を通して、より深く感じました。

詳細などお問合せ先

岐阜大学 地域協学センター
〒501-1193
岐阜県岐阜市柳戸1-1
Tel. 058-293-3168
E-mail. ccsc@gifu-u.ac.jp
http://www.ccsc.gifu-u.ac.jp/

岐阜商工会議所
Tel.058-264-2131